

当報告の内容は著者の著作物です。

KKLO・コタキナバル日本人会共催講演会 講演要旨

日時：2014年1月12日〈日〉15:00~17:00

場所：コタキナバル日本人学校

KINABALU JAPANESE SCHOOL

Lorong Burong Ejek House No.8, Jalan Tuaran, Miles 3.5,

88450, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia

「スールー王国軍」サバ侵入事件の舞台裏ーサバとフィリピン南部との関係を中心に

床呂郁哉 (AA 研所員、コタキナバル・リエゾンオフィス拠点長)

今回の講演では2013年2月、フィリピン南部のスールー諸島から出発した「スールー王国軍 (Royal Security Force of Sultanate of Sulu:以下RSF)」を名乗る武装集団が東マレーシア・サバ州東海岸に上陸して村を占拠した事件を題材に、その背景について詳しい解説を行った。同事件では同年3月以降、RSFとマレーシア治安部隊との武力衝突へ発展し、衝突は一時、政府側による空爆を含む大規模な衝突に発展し、国連事務総長が停戦を呼び掛ける事態となった。今回の講演では、同事件について、マレーシア・サバ州の東海岸とフィリピン南部情勢 (歴史的、社会・文化的、政治・経済的側面) との関係や主としてフィリピン側のアクター (関係者) とそのマレーシアとの関係) などに焦点を当てて解説を行った。その過程で当事者へのインタビューや現地調査 (スールー側) での知見などの一次データも紹介した。